
第22回 町田市交通マスタープラン推進委員会 会議録

開催日時：2019年3月26日（火）14時00分～16時00分

開催場所：町田市庁舎3階 3-1会議室

出席委員：22名

傍聴人：1名

事務局：4名

【会議次第】

1. 開会挨拶
2. あいさつ
3. 議題
4. その他

【議題】

1. 町田市の交通計画について
2. 「町田市交通マスタープラン」及び「町田市都市・地域総合交通戦略」における各施策の進捗状況について
3. 「町田市地域公共交通会議」での検討状況について

【資料】

[議題資料]

- 第22回町田市交通マスタープラン推進委員会 次第
- 町田市交通マスタープラン推進委員会 委員名簿
- 資料1-1：「町田市交通マスタープラン」及び「町田市都市・地域総合交通戦略」における各施策の進捗状況について
- 資料1-2：2018年度 町田市交通マスタープラン及び町田市都市・地域総合交通戦略 各施策の進捗状況確認表
- 資料2：「町田市地域公共交通会議」での検討状況について

[参考資料]

- 資料1-3：「小山田桜台ワゴン車実証運行」運行案内
- 資料1-4：まちっこ（公共施設巡回ルート）運行案内
- 資料1-5：あいはらシャトル運行概要
- 資料1-6：「新型ホームドア導入検討の手引き」の概要について
- 資料1-7：町田市中心市街地活性化協議会まちづくり部会主催のワークショップにおける配布資料
- 資料1-8：運転教室等における配布資料

<開会挨拶>

省略

<議事>

1. 町田市の交通計画について

[資料説明]

町田市交通マスタープラン（冊子）、町田市都市・地域総合交通戦略（冊子）、町田市便利なバス計画（冊子）について事務局による説明（省略）

[意見等]

（委員）終電の前にバスの最終が来てしまい、その部分をタクシーは補完していると考えているが、そのあたりの考えは交通政策の中には含まれているのだろうか。

（委員長）公共交通の定義も含めて、いかがだろうか。

（事務局）バスだけでなく、もちろんタクシーも公共交通の一つと考えており、市民の重要な交通手段の一つである。タクシーについても今後、交通マスタープランの中で考えていくことになると思う。

（委員）基本的には、市が色々と尽力していることは分かっているが、交通マスタープランの中で、移動という観点でより具体的な内容を示していただきたい。

（事務局）委員からお話があった通り、タクシーも重要な交通手段の一つである。相原の方でもタクシー車両を用いた実証実験を進めている。具体的な内容を示してほしいということだが、現在の交通マスタープランの中では足りない部分もあるかと思うので、見直しや改定の際には意見交換をさせていただければと思う。

2. 「町田市交通マスタープラン」及び「町田市都市・地域総合交通戦略」における各施策の進捗状況について

[資料説明]

資料1-1『「町田市交通マスタープラン」及び「町田市都市・地域総合交通戦略」における各施策の進捗状況について』、資料1-2『2018年度 町田市交通マスタープラン及び町田市都市・地域総合交通戦略 各施策の進捗状況確認表』、及び参考資料1-3～8について事務局による説明（省略）

[意見等]

特になし

3. 「町田市地域公共交通会議」での検討状況について

[資料説明]

資料2『「町田市地域公共交通会議」での検討状況について』について事務局による説明（省略）

[意見等]

（副委員長）あいほらシャトルに関して、1便当たり利用者数が記入されているが、平均2.5人となると、2台目の車両を追加する必要があるという目安になり、1.0人を切ると事業としては厳しいという指標となる。平均して2.0人くらいで

推移すると運行上の効率は良いと考えられる。しかし、平均2.0人なので、採算という面では厳しい。別の車両があればいいが、そうするとコスト面で合わなくなってしまう。もう少し乗車人数が増えると良いと個人的には思っている。

<その他>

・全体を通して

(委員) 私は忠生地域に住んでおり、毎年市長に懇談会という形でお願いはしているが、バスに対する不満が強く、要望を伝えても採算面等から実現に至らない。

また、多摩方面への交通ニーズが高まってきているが、ほとんどのバスは町田駅に向かっている。このような交通不便の中で、日大三校や桜美林学園など、大量輸送が必要なものに関しては学校が専用バスを走らせているが、地域住民はほとんど利用できず、結果として交通弱者が取り残されてしまう。解決策の一つとしてモノレールへの期待を抱いているが、相当の時間がかかり、全体的な交通体系としてどうすれば良いかと悩んでいる。

(委員長) そのような要望は多くあると思うが、町田市としての対応はいかがか。

(事務局) 市としても、バスが少なく不便しているという話は聞いている。その際には神奈川中央交通様へ、要望がきていると伝え、増便等働きかけを行っているが、バス事業者全体として、運転手不足という課題もあり、実現できない部分もある。市としては、今後そのような課題を解決するための話し合いを進めていきたいと考えている。

(委員) すべての要望を汲むことはできないことは分かっている。そのような話し合いの場をできる限り設けてもらい、理解を得るようにしてほしい。よろしくお願いします。

(委員長) ありがとうございます。そのほかはどうか。

(委員) タクシー業界でも人手不足という問題はあります。公共交通については、多面的に取り組み、課題解決する必要がある。そのことをさらに市民の方に説明し、フィードバックしながら合意を得ていくことが重要だと思う。

(委員長) 包括的に考えていかなければならない問題だと思う。ご指摘ありがとうございます。そのほかはどうか。

(委員) 人手不足というご指摘があったが、人口減少社会に突入した中で、我々も発想を変えていく必要があると思う。町田市の組織の中でも交通に携わる部署だけでなく、高齢者に対するケアの必要があれば、福祉の部署に意見を出してもらおう等、総合的に取り組んでいく必要があると考える。私の地区は駅から10～15分くらいで、健康な人にとっては非常に便利な場所だが、高齢者の方等には負担が大きい。新しい魅力を作るような総合的な施策があり、その中の一つとしての交通施策であることを共有していく必要があると感じている。

(委員長) 当会議は年一回なので、例えば町田市の人口の現状や、空間的な分布はどのように変化したかなど、根本的なところから見直し、今の指摘に対応するようなことを議論する

時間があっても良いと思う。町田市の人口はまだ増えているのか。

(委員) 今年初めて人口が減少した。子どもの施策を打ち出し、社会増は増えているが、自然減が上回った。皆さまご指摘の通り、町田市もかなり高齢化が進んでいる。市民の足として交通利便性の確保はとても重要であると考えており、町田市でできることは何かということを考え、様々なことをやらせていただいている。モノレールが全てを解決するわけではないが、まちを大きく変えるきっかけとなることを私たちは願っており、その導入とともにどのようなまちを目指していくのかというところをしっかりと考えていきたい。2020年度には町田市としての基本構想として、新たな都市マスタープランを作っていくというタイミングにきている。2019年度からはその時期の計画策定に向けて検討をスタートさせていきたいと考えている。その中で、町田市が目指すのはどこなのかということも踏まえながら、しっかりと議論させていただきたいと考えている。

(委員長) もう一つ、福祉をからめた交通施策のご提案もあったが、おそらく庁内でそのような部署をまたがった議論は普段からしているような気がするが、いかがか。

(委員) 子どもからお年寄りまでそれぞれ、地域でどうかたちで皆さんの生活を守っていくのか、それを全て行政ができるのかということなかなか難しい。どういう形で利便性を確保していくかということを考えなければならない。都市、福祉、子どもと分けて考えるのではなく、包括的に取り組んでいき、そして市民の皆様の生活をどのように良くしていくかということについては、より加速して取り組んでいく必要があると認識している。

(委員長) ありがとうございます。そのほかはどうか。

(委員) 私は町田でタクシーを運行している。先ほど申し上げたかったこととしてはつまり、町田市に若い人に来てほしいということである。その中で、例えば地域の代表の方が、交通マスタープランの分科会のようなところで問題点を議論し、上にあげていくというのが一番良いのではないかと思う。今後考えていただけたらと思う。

(委員長) 以前はバスや物流の分科会といった形式でやっていたときもあったが。

(事務局) 確かに以前はバスや物流の分科会もあったが、地域公共交通会議を開催したことによって一つにまとめさせていただいた。委員からいただいたご意見については参考にさせていただきますのでよろしくお願い致します。